

2021年5月21日

今年の梅雨はどうか？ウェザーニュース、2021年「梅雨見解」を発表
梅雨入り・梅雨明け共に平年より早く、梅雨期間は西日本で長めの傾向
 ～6月中旬から7月上旬は梅雨末期の大雨に警戒、沖縄・奄美では空梅雨の可能性～

株式会社ウェザーニュース(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:草開千仁)は、2021年の「梅雨入り・梅雨明け見解」を発表しました。

まだ梅雨入りしていない関東甲信、北陸、東北南部、東北北部では6月上旬に梅雨入りが発表される可能性があり、いずれも平年より早い梅雨入りとなりそうです。梅雨明けも平年より早く、7月上旬に梅雨明けするところが多い見込みです。西日本を中心に、6月中旬から7月上旬にかけては梅雨末期の大雨に警戒が必要です。

最新見解はスマホアプリ「ウェザーニュース」またはウェザーニュースウェブサイト「梅雨情報」からご確認いただけます。雨の季節を少しでも安全で快適に過ごせるようお役立てください。

本プレスリリースの素材のダウンロード	最新の梅雨見解はこちら
ウェブ版プレスリリース「梅雨見解 2021」 https://jp.weathernews.com/news/35868/	ウェザーニュースウェブサイト「梅雨情報」 https://weathernews.jp/s/news/tsuyu/

◆ 梅雨見解 2021

～梅雨入り・梅雨明け共に平年より早く、梅雨期間は西日本で長めの傾向～

今年は5月5日に沖縄と奄美で、11日に九州南部、15日に九州北部、四国、中国、16日に近畿、東海で梅雨入りが発表されました。いずれも平年より早い梅雨入りで、四国と近畿では統計史上最も早い、九州南部、九州北部、中国、東海では統計史上二番目に早い梅雨入りとなりました。まだ梅雨入りが発表されていない関東甲信、北陸、東北南部、東北北部でも、平年より早い6月上旬にも梅雨入りが発表される可能性があります。

昨年は前線の北上が平年並からやや遅くなりました。そのため、九州南部で平年並、東北南部で平年より早い梅雨入りだった以外は、平年より遅い梅雨入りとなりました。今年は5月上旬から中旬にかけて太平洋高気圧の勢力が強まり、沖縄から東海で平年より早い梅雨入りとなりました。今後5月末から6月はじめ頃に太平洋高気圧の勢力が増すと予想され、このタイミングで関東甲信から東北まで梅雨入りすると見えています。

一方、梅雨明けは全国的に昨年より早く、平年より早いところが多い見込みです。7月上旬に梅雨明けするところが多く、その後は晴れて暑くなります。昨年、梅雨明けが特定されなかった東北北部も平年よりかなり早い7月中旬に梅雨明けする見込みです。梅雨期間は沖縄、奄美、関東甲信、北陸、東北で平年より4日以上短くなります。一方、九州南部から東海は平年より4日以上長くなる見込みです。

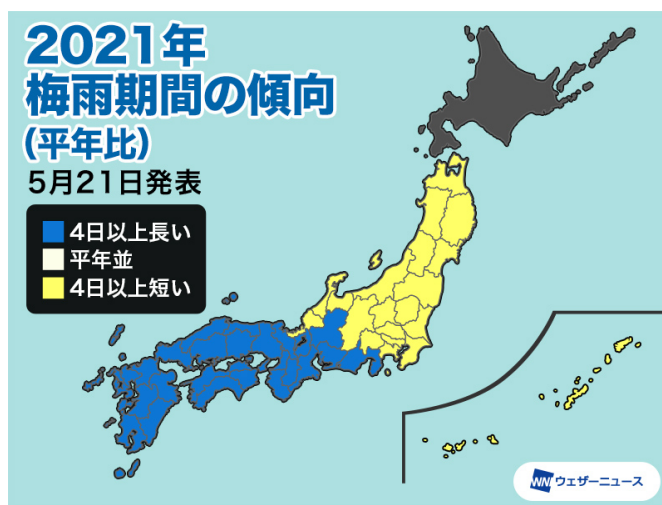


図1 梅雨期間の傾向

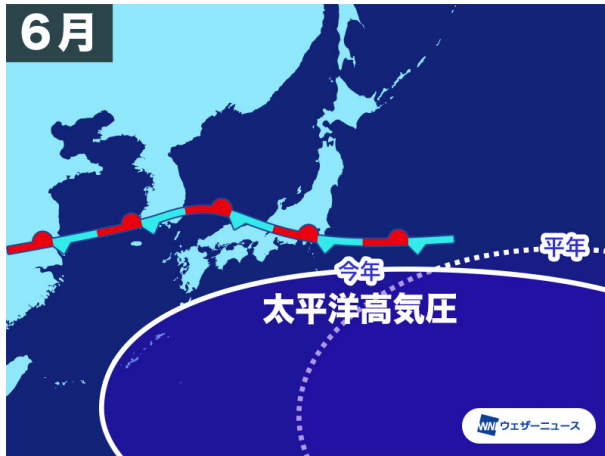


図2 6月の天気図イメージ

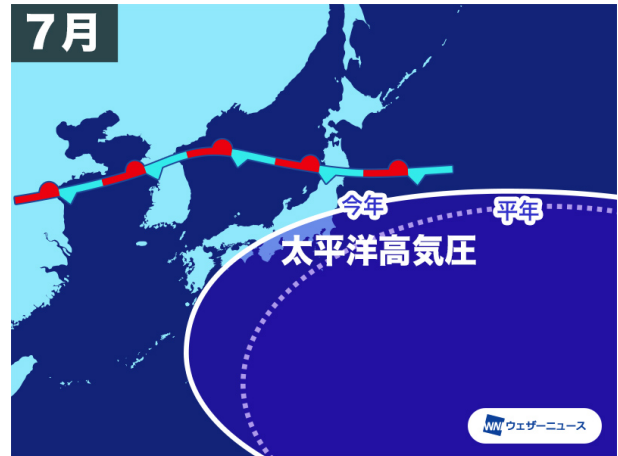


図3 7月の天気図イメージ

日本の天候に関する熱帯の対流活動に注目すると、昨年はインド洋熱帯域の対流活動が活発だったため、フィリピン付近での対流活動が抑制され、太平洋高気圧の勢力が弱く、結果として全般に梅雨入り、梅雨明けが平年より遅くなりました。今年の6月はインド洋熱帯域の対流活動は概ね平年並かやや不活発で、フィリピン周辺では活発になる傾向です。5月下旬にフィリピン近海の対流活動がピークになると見られ、このタイミングで太平洋高気圧が強まり、前線が北上する見込みです。7月のインド洋熱帯域の対流活動は概ね平年並で、フィリピンの東海上での対流活動も概ね平年並ですが、7月上旬に対流活動のピークとなる見込みです。このタイミングで太平洋高気圧が本州付近へ張り出しを強めるため、前線が北上し平年より早く梅雨明けするところが多くなる予想です(図3)。

～6月中旬から7月上旬は梅雨末期の大雨に警戒、沖縄・奄美では空梅雨の可能性～

今年の梅雨期間の雨量は、九州、四国、中国、近畿、東海、東北北部で平年並か多く、関東甲信、北陸、東北南部は平年並の予想です。また、奄美、沖縄は平年より少なく、空梅雨の可能性ががあります(図4)。

5月は梅雨前線が平年より北に位置することが多く、6月も梅雨前線を押し上げる太平洋高気圧の北への張り出しが平年より強く、前線は本州付近に停滞します。このため、沖縄や奄美では高気圧に覆われやすくなります。一方、前線が停滞しやすくなる九州から東北では曇りや雨の日が多くなります。本州付近は暖かく湿った

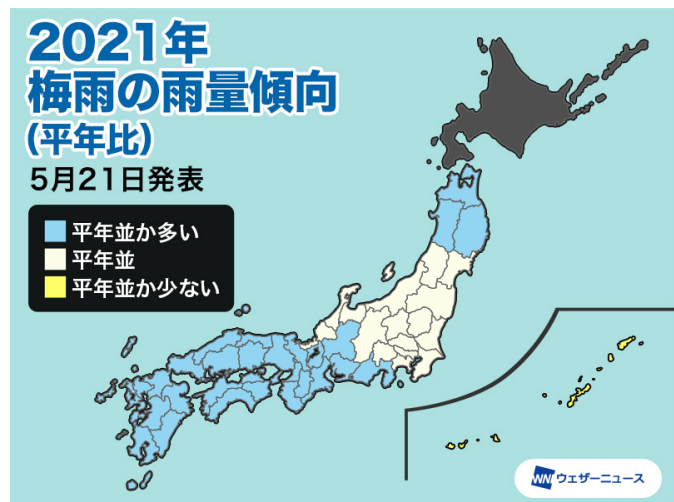


図4 梅雨の雨量傾向

た空気が流れ込みやすく、前線の活動が活発化する日があり、西日本を中心に6月中旬から下旬にかけて大雨や豪雨に警戒が必要です。7月は平年より早く太平洋高気圧が北への張り出しを強めるため、東日本や西日本は前線の南側に入り、平年より早く晴れる日が多くなりそうです。一方、東北では7月上旬に、梅雨末期の大雨に注意が必要です。

※本見解は21日時点のものです。予測が大きく変わる可能性もありますので、最新見解は、スマホアプリ「ウェザーニュース」または、ウェザーニュースウェブサイト「梅雨情報」(<https://weathernews.jp/s/news/tsuyu/>)にてご確認ください。

◆ 各地方の梅雨入り・梅雨明け予想

地方	梅雨入り			梅雨明け		
	2021年	2020年	平年	2021年	2020年	平年
東北北部	6月上旬	6月25日頃	6月15日頃	7月中旬	特定しない	7月28日頃
東北南部	6月上旬	6月11日頃	6月12日頃	7月中旬	8月2日頃	7月24日頃
北陸	6月上旬	6月11日頃	6月11日頃	7月中旬	8月1日頃	7月23日頃
関東甲信	6月上旬	6月11日頃	6月7日頃	7月上旬	8月1日頃	7月19日頃
東海	5月16日	6月10日頃	6月6日頃	7月上旬	8月1日頃	7月19日頃
近畿	5月16日	6月10日頃	6月6日頃	7月上旬	8月1日頃	7月19日頃
中国	5月15日	6月10日頃	6月6日頃	7月上旬	7月31日頃	7月19日頃
四国	5月15日	6月10日頃	6月5日頃	7月上旬	7月29日頃	7月17日頃
九州北部	5月15日	6月11日頃	6月4日頃	7月上旬	7月30日頃	7月19日頃
九州南部	5月11日	5月30日頃	5月30日頃	7月上旬	7月28日頃	7月15日頃
奄美	5月5日	5月17日頃	5月12日頃	6月中旬	7月20日頃	6月29日頃
沖縄	5月5日	5月16日頃	5月10日頃	6月中旬	6月12日頃	6月21日頃

※梅雨入り・梅雨明けには平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間あり、表には移り変わりの期間の概ね中日を記載しています。

※「平年」は、1991年～2020年の30年平均(入り・明けを特定しなかった年は除外)の日付です。

◆ 地方ごとの梅雨の天気傾向

地方	雨のピーク時期	雨量の傾向 (平年との比較)	天気傾向
東北北部 ・ 東北南部	7月上旬	平年並が多い	<p>梅雨入りは東北北部・南部ともに平年より早い予想です。今年は7月になると太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線の北上が平年より早まる見通しです。このため、梅雨明けも東北北部・南部ともに平年よりかなり早くなる見込みです。</p> <p>6月は梅雨前線が本州付近に停滞するため、曇りや雨の日が多くなります。7月上旬は梅雨前線が北上し、曇りや雨の日が多くなります。梅雨末期は豪雨や大雨の恐れがあり、河川の増水、家屋の浸水、土砂災害などに警戒が必要です。</p>
北陸	6月下旬	平年並	<p>北陸の梅雨入りは平年より早い予想です。今年は7月になると太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線の北上が平年より早まる見通しです。このため、梅雨明けも平年より早くなる見込みです。</p> <p>6月は梅雨前線が本州付近に停滞するため、曇りや雨の日が多くなります。7月上旬までは曇りや雨の日が多いですが、中旬以降は晴れて暑い日が多くなりそうで</p>

			す。6 月下旬は豪雨や大雨の恐れがあり、河川の増水、家屋の浸水、土砂災害などに警戒が必要です。
関東甲信	6 月下旬	平年並	<p>関東甲信の梅雨入りは平年より早い予想です。今年は 7 月になると太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線の北上が平年より早まる見通しです。このため、梅雨明けは平年よりかなり早くなる見込みです。</p> <p>6 月は梅雨前線が本州付近に停滞するため、曇りや雨の日が多くなります。7 月上旬に梅雨明けし、梅雨明け後は晴れて暑い日が多くなりそうです。6 月下旬は豪雨や大雨の恐れがあり、河川の増水、家屋の浸水、土砂災害などに警戒が必要です。</p>
東海	6 月下旬	平年並が多い	<p>東海の梅雨入りは統計史上二番目に早い 5 月 16 日でした。今年は 7 月になると太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線の北上が平年より早まる見通しです。このため、梅雨明けも平年よりかなり早くなる見込みです。</p> <p>6 月は梅雨前線が本州付近に停滞するため、曇りや雨の日が多くなります。7 月上旬に梅雨明けし、梅雨明け後は晴れて暑い日が多くなりそうです。6 月下旬は豪雨や大雨の恐れがあり、河川の増水、家屋の浸水、土砂災害などに警戒が必要です。</p>
近畿	6 月中旬～下旬	平年並が多い	<p>近畿の梅雨入りは統計史上最も早い 5 月 16 日でした。今年は 7 月になると太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線の北上が平年より早まる見通しです。このため、梅雨明けも平年よりかなり早くなる見込みです。</p> <p>6 月は梅雨前線が本州付近に停滞するため、曇りや雨の日が多くなります。7 月上旬に梅雨明けし、梅雨明け後は晴れて暑い日が多くなりそうです。6 月中旬から下旬にかけては豪雨や大雨の恐れがあり、河川の増水、家屋の浸水、土砂災害などに警戒が必要です。</p>
中国 ・ 四国	6 月中旬～下旬	平年並が多い	<p>四国・中国の梅雨入りは平年よりかなり早い 5 月 15 日でした。四国では統計史上最も早い、中国では統計史上二番目に早い梅雨入りとなりました。今年は 7 月になると太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線の北上が平年より早まる見通しです。このため、梅雨明けも平年よりかなり早くなる見込みです。</p>

			<p>6月は梅雨前線が本州付近に停滞するため、曇りや雨の日が多くなります。7月上旬に梅雨明けし、梅雨明け後は晴れて暑い日が多くなりそうです。6月中旬から下旬にかけては豪雨や大雨の恐れがあり、河川の増水、家屋の浸水、土砂災害などに警戒が必要です。</p>
九州北部 ・ 九州南部	6月中旬～下旬	平年並か多い	<p>5月11日に九州南部が梅雨入りし、5月15日には九州北部が梅雨入りしました。いずれも平年よりかなり早く、統計史上二番目に早い梅雨入りとなりました。今年は7月になると太平洋高気圧が北への張り出しを強め、梅雨前線の北上が平年より早まる見通しです。このため、梅雨明けも九州南部・北部ともに平年よりかなり早くなる見込みです。</p> <p>6月は梅雨前線が本州付近に停滞するため、曇りや雨の日が多くなります。九州南部・北部ともに7月上旬に梅雨明けし、梅雨明け後は晴れて暑い日が多くなりそうです。6月中旬から下旬にかけては豪雨や大雨の恐れがあり、河川の増水、家屋の浸水、土砂災害などに警戒が必要です。(※九州北部は山口県を含む)</p>
沖縄 ・ 奄美	5月下旬 ～6月上旬	平年並か少ない	<p>5月5日に沖縄・奄美が梅雨入りし、いずれも平年より早い梅雨入りとなりました。奄美の梅雨明けは7月にずれこんだ昨年よりかなり早く、平年と比べてもかなり早くなる予想です。沖縄の梅雨明けは昨年と同様で、平年より早い見込みです。</p> <p>今年の梅雨の期間は平年より短く、さらに太平洋高気圧に覆われやすく、前線活動も弱いため空梅雨になる可能性があります。ただし、梅雨前線の活動が活発化し、豪雨や大雨になる可能性はあります。河川の増水、浸水被害、土砂災害などに警戒が必要です。</p>